

卒業生が職業紹介

JAXA技術者や裁判官

「夢や目標持って」と

浦安・日の出中

働くことについて考えてもらおうと、浦安市立日の出中学校(寺尾里代校長)で、同校出身のOB・OGや保護者らを講師に招いたキャリア教育授業が開かれた。宇宙航空研究開発機構

(JAXA)の技術者や裁判官ら23人の多彩な人材が集まり、1年生約200人を対象に、仕事内容を紹介したり、目標を持つことの大切さなどを語った。在校生や卒業生の保護者



宇宙開発技術者から話を聞く生徒たち。浦安市立日の出中

らが中心となって地域ぐるみで学校を支援している。「日の出サポーターズクラブ」が企画・運営。キャリア教育は今年で5回目を迎えた。この取り組みは本年度、文部科学大臣賞に選ばれた。

「働(はたら)クエスト 自分探しの旅」と題し、今年には建築士、発電所技術者、パイロット、医師、化粧品販売、広告、銀行営業、消防士などの職業を持つ卒業生や保護者ら23人が登場。生徒たちは興味のある職業を二つずつ選んで、10人前後のグループに分かれて話を聞いた。

航空会社の調達とパイロットの「授業」を受けた今井柚那さん(12)は「仕事をやる上で、あいさつやコミュニケーションが大事と聞いた。今から身に付けたい」。宇宙開発技術者と裁判官から話を聞いた若生拓

樹君(13)は「小学校で宇宙について調べたのを機に興味を持った。裁判の話も面白かった」と話した。

友哉さん(29)はJAXAで人工衛星を開発する技術者。「自分も中学生の時は将来の夢がはつきりしていなかった。子どもたちには

勉強しろと言つのではない、将来何をしたいかを考えながら行動してほしいとメッセージを送りたい」と語った。

